

タイトル：2025 年度 教育セミナー

日時：2025 年 9 月 19 日（木）～22 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

「反体制派支援諸国の介入『失敗』要因—『広義的介入』からみるシリア内戦—」

大橋 悠佳(創価大学文系大学院)

4 日間にわたって行われた中東・イスラームセミナーでは、同世代の研究者の研究発表や先生方の講義を受けることができ、非常に有意義な時間を過ごした。特に自身の研究報告では、分析枠組みや視点について指摘していただくことができ、研究の精度をさらに高めるきっかけを作ることができた。

現在所属している大学院では、中東やイスラームといった自身の研究テーマに近い先生、学生はいない。また自身の研究もフィールドこそ中東だが、対象は内戦に介入した域内外の国家主体であるため、純粋に中東を研究していると言いづらい面もある。そのため、本セミナーについて知った際、「参加したいけれど、自分のテーマでは求められている条件に該当しないかもしれない」と思っていたが、参加させていただくことができ本当に良かったと思う。

セミナーは、同世代の研究者の報告や先生方の講義が4日間にわたって行われた。歴史学や政治学、解釈学、対象地域は中東だけでなく、ウズベキスタンなど中央アジア、東南アジア、アフリカなど、分野も地域も横断した「中東・イスラーム」の報告が行われ、こんなに中東、イスラームに浸ることはないと思うほど濃密な時間を過ごさせてもらった。今までの研究・活動報告や地域トピックなどを中心とした先生方の講義では、自身の研究と違う視点・展開が構造化され非常に興味深かった。特に、研究の疑問点の見つけ方などは、自身の今後の研究でも真似をしていきたいと思う。

自身の研究報告では、分析枠組みの矛盾点や齟齬が生じている点について再確認することで、さらに精度を高めることができた。特に介入の「失敗」の定義や非伝統的介入の範囲設定への指摘は、自分では説明できていると思ってもできてない点を洗い出せたり、普段の研究報告では指摘されない観点からの質問を受けられたり、自大学から離れて研究報告ができる場を提供してもらえてありがたかった。自身の専攻する国際関係論では、演繹的に考えることが多いため、丁寧に事象を洗い出して論拠とする地域研究の手法は非常に参考になった。

また、同世代の研究者と関係をつくれたのは非常にありがたかった。所属している大学院では、中東やイスラームの研究者がいないため、専門分野の研究ネットワークを築くことが難しい。研究の話や進路の悩みなど、同世代の大学院生だからこそ共有できるテーマで楽しい時間を過ごすことができたのもよかった。

最後に、本セミナーを企画・運営していただいた AA 所員の皆様に感謝を申し上げたい。今回の経験を生かして自身の研究をさらに深めていきたいと思う。